

あかしユニバーサルモニター及び(仮称)あかしユニバーサルアドバイザーについて

2018年2月に共生社会ホストタウン関連事業として創設した「あかしユニバーサルモニター制度」については、制度開始から2年を経過したところです。

そこで制度開始からこれまでの間のモニター活動について報告するとともに、当事者参画の新たな取組として立ち上げを検討している「(仮称)あかしユニバーサルアドバイザー制度」の概要についてご説明します。

1. あかしユニバーサルモニター制度

(1) 制度の概要

ユニバーサルデザインのまちづくりを障害のある人とともに進めていくために、駅周辺や宿泊施設、飲食店等のバリアフリー環境の整備や情報アクセシビリティ等の充実に関して、障害当事者目線で具体的な意見を出していただく制度で、現在様々な障害種別のモニター24名が活動しています。

(2) 活動内容等

◇これまで出された意見 54件 (2018年2月～2020年1月末)

(内訳)・道路に関すること	13件
・施設に関すること	4件
・駅や交通機関に関すること	11件
・市に関すること	10件
・事業者・店舗等のサービスに関すること	9件
・医療に関すること	1件
・その他	6件

随時意見を出してもらうほか、街歩きによる地域のバリアフリーチェックや意見交換会など、様々な活動を行ってきました。利用者目線の意見にふれることで、福祉部局に限らず様々な市職員の意識にも変化が生まれました。

今後も様々な意見を出していただく枠組みとして、継続していきます。



バリアフリーチェックの様子



意見交換会の様子

2. (仮称) あかしユニバーサルアドバイザー制度

(1) 制度の検討に至った経緯

ユニバーサルモニターとの街歩きや、市が実施した工事の一部において車いすユーザーや視覚障害者とともに現地を確認する機会を設けたことを通じて、平均化された基準からは見えてこない個々のニーズを知ることができ、市道や市の施設などで効果の高い整備につなげることができました。

そこで、基準や効率性だけに着目するのではなく、個々のニーズから着想を得て、複数の障害当事者との対話を経て対応策を考えることによって、より多くの市民が暮らしやすいと思えるまちづくり、使いやすいと思える施設整備を進めていけるよう、当事者の企画段階からの参画を促進する見出しの制度の創設に向けて検討を進めているところです。

(2) 制度案の概要

ユニバーサルモニターと同様に幅広い当事者人材に登録してもらい、各事業の企画段階から内容に応じた複数名の当事者に参画してもらうことで、当事者とともにより良い事業へ導いていくことを目的としています。

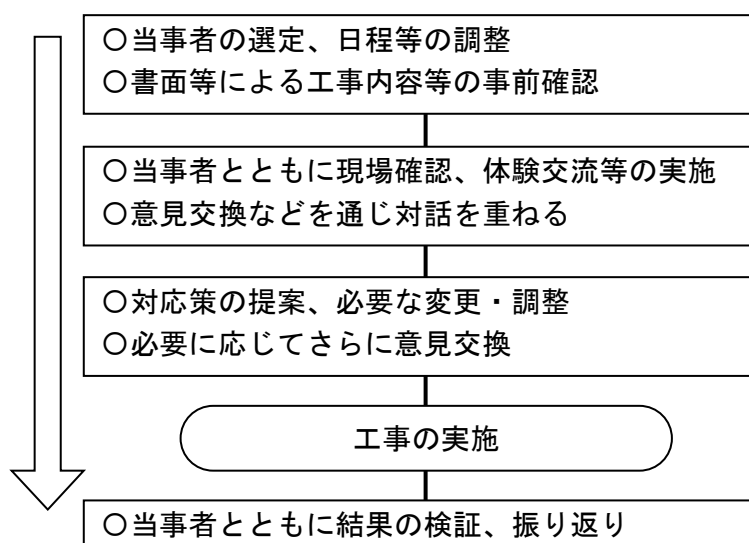
◇ 制度の対象となる事業

施設整備などの工事における現地確認やイベント開催に向けた調整など、ハード、ソフト問わず当事者参画を必要とする事業を考えています。

◇ 制度の対象者

まず市が実施する工事等から導入し、民間事業者の取組にも対応できるよう検討していきます。

【制度利用のイメージ (例：工事の場合)】



(3) 今後の予定

実績を積み重ねながら、より当事者のニーズ、利用者のニーズに沿った形で運用していく予定です。